

農業体験

田植え



埼玉県坂戸市の農家さんにご協力いただき、田んぼを一反お借りして稲作体験を行いました。まずは、5月の田植えです。最初に農家さんから説明を受け、一人ひとり苗を受け取って手作業で田植えをしていきます。



裸足で田んぼに入ることが初めてという生徒がほとんどで、はじめはおっかなびっくりでしたが、徐々にコツをつかんでいきました。泥んこになりながら、田んぼの3分の1ほどを手作業で田植えしました。農家さんが田植機を使って苗を植える様子と、ドローンを用いた農薬散布も見学し、機械化の素晴らしさを実感しました。

中干し

7月には中干しの様子を見学し、稲の成長具合を確かめてきました。「水田」という言葉もあるように、田んぼは一年中水を張っているイメージがあるかもしれませんが、途中で一度水を抜いてしまう「中干し」をはさむことが欠かせません。水をすっかり抜くことで、稲は枯れてしまわないようにしっかりと栄養を自分の中に閉じ込めるため、美味しいお米ができるのだそうです。



水を抜いてひび割れた田んぼ



水を抜いた田んぼの上を歩くと、見た目と違って思った以上にふかふかでした。稲は順調に育っていて、5月に植えたときは5本だった苗が40本ほどに増えていることに生徒たちは驚いていました。2か月後の収穫を楽しみにしながら、駅までの田舎道を歩いて帰ってきました。

稲刈り

9月に入り、いよいよ収穫の時期を迎えました。自分たちの植えた苗が立派に育っている様子に感激しつつ、鎌を使って恐る恐る手作業での稲刈りです。当日は気温が高く、汗だくになりながらの大変な作業でした。生徒たちはみな、昔の農家さんの苦労を実感したようです。



鎌で稲刈りをした後は、一人ひとりコンバインを操縦させてもらいました。ここでも機械化のありがたさを実感するとともに、普段なかなかできない貴重な体験に、みな心を弾ませていました。収穫したお米は学校まで運んでいただき、一人 10kg ほど持ち帰りました。保護者の方からも、とても美味しかったという感想をいただきました。



